

# 学校施設の空調設備や 水道事業などを議論

**委員会からの要請**  
地元業者にも有益となり、何よりも

**市からの説明**  
空調設備の整備について、工事は一括発注を想定しており、予定価格が1億5千万円を超えるため、入札が制限付一般競争入札となる。また、工事契約の締結に議会の議決が必要になることなどから、今後のスケジュールは、実施設計業務を4月下旬に完了、5月上旬に起工、その後、指名審査委員会、公告を経て、7月上旬に入札・仮契約、7月中旬に臨時議会をお願いし、本契約した場合、工期が7月中旬から平成32年1月中旬までとなる見込みである。

**Q** 9月末頃までには完成できるようにはならないか。

**A** 分割発注した場合、諸経費が高くなるので一括発注を予定しているが、仮に分割発注した場合は、制限付一般競争入札とならないこと、また、議会の議決が不要となるため、6月上旬にも工事着工が可能となり、夏休み期間を有効に使い、早ければ9月下旬までの完成も可能となる見込みである。

## 学校施設空調設置事業

**委員会からの要請**  
地元の業者にも有益となり、何よりも

**市からの説明**  
工期を短縮できる分割発注での整備を進めてはどうか。

**A** 早期完成を目指し、分割発注の方向で進めていきたい。

**平成31年度平戸市水道事業会計予算**  
**Q** 老朽管の更新が大きな課題となっているが、耐用年数を超えている老朽管路の状況は。

**A** 現在、市内全体の管路延長666kmのうち法定耐用年数の40年を経過している老朽管路の延長が約280km、老朽化率約42%となっている。これを全て更新した場合、概算で約139億円の財源が必要である。

## 生月町B&G海洋センター 改修事業

**委員会からの意見**  
各課それぞれに利用料の平準化に取り組むことは難しいかもしれないが、全庁的に分類ごとに取り組むのなら調整も可能ではないか。

**Q** 今回の改修工事は、仮にB&G財団からの補助がなくても実施するのかわ。また、今後の施設の運営方針は。

**A** 当該施設はB&G財団から旧生月町が無償譲渡されたもので、改修費の最高補助限度額を受けられる特Aランクを取得する施設であると同時に地元

**委員会からの要請**  
寄附者の意向を尊重するとともに、有意義な児童遊園が完成されることを望むが、質問に対する答弁が二転三転したことから猛省を促す。また、十分な答弁を準備して委員会に臨むことを強く要請する。

**Q** この整備を寄附者は本当に望んでいたのか。

**A** 寄附者の意向についてはそのとおりである。

**委員会からの要請**  
寄附者の意向を尊重するとともに、有意義な児童遊園が完成されることを望むが、質問に対する答弁が二転三転したことから猛省を促す。また、十分な答弁を準備して委員会に臨むことを強く要請する。

**Q** この整備を寄附者は本当に望んでいたのか。

**A** 寄附者の意向についてはそのとおりである。

**委員会からの意見**  
各課それぞれに利用料の平準化に取り組むことは難しいかもしれないが、全庁的に分類ごとに取り組むのなら調整も可能ではないか。

# 生月町の 児童遊園について議論

## 児童遊園管理運営事業

**市からの説明**  
老朽化した遊具2基を撤去し、新たに児童遊具1基と健康遊具2基を設置。併せて、休憩所としてあずまやと市指定史跡の一部氏屋敷跡の紹介をする説明板を設置する。

**Q** あずまやと説明板が設置される土地は現在どうなっているのか。また、その土地にあって、今回、解体・撤去するという昭和41年に建てられた御堂の所有者はどうなっているのか。



撤去する御堂



現在のあずまや北児童遊園の様子



あずまや北児童遊園完成イメージ

**A** 昭和41年に旧生月町において本児童遊園を整備する際、隣接する土地に

御堂といわれる建物建設の要望があったため旧生月町が造り、それを地域が使用していた。建物は旧生月町の所有であるが、現在においても登記がなされていなかった。御堂のある土地については3人の共有名義となっており、平成30年9月に市に無償譲渡の申し入れがあり、現在、移転登記中である。また、平成30年3月にカトリック山田幼稚園が閉園になる際、学校法人うみのほし学園から2千万円の寄附を受けたが、寄附の使途希望としてあずまや北児童遊園のある地域が潜伏キリシタンに関係した方が多く、御堂もその方々が使っていたことから、古くなった御堂の撤去とともに史跡としての価値を残し、一体を整備してほしいとの話を受けていた。

今回、市では整備方針として、土地

また、運営面においても、これまで正規職員を臨時職員に変更し経常経費の削減に努めるとともに、地域外の水泳指導やカヌーの指導を行うなど経営改善にも取り組んできている。今後の施設の運営に当たっては、使用できる間は施設の目的に沿って活用したいと考えており、施設の長寿命化を図るとともに、市内全域の人への利用促進を図っていきたい。

**Q** 県内の同施設と比較しても低い利用料金の設定については、以前から議会としても指摘してきたところである。他施設の状況を見ながら、早急に利用料金の見直しを行うべきではないか。

**A** 教育委員会だけでなく全庁的に考えるべき問題であり、行革の中で考えるので二時的に保留となっている段階。行革担当課のほうで見直し基準の方針が確定次第、早急に改正を行うよう考えている。